

平成18年度

個に応じた指導を充実させるための教科指導に関する調査研究 音楽

本調査研究は、昨年度と本年度の2年間にわたり行われた。昨年度、音楽科においては、小学校音楽科指導における「教材開発と学習過程の工夫」に焦点を当てて研究を展開した。本年度は、中学校音楽科において、表現と鑑賞活動を支える、「音楽の諸要素を知覚し、感受する力」に焦点を当て、研究を展開した。

これまで、中学校音楽科の授業では、表現活動では、生徒が共通の感動体験を味わえるような合唱活動が多く展開される傾向があった。そこでは、音楽活動の質的な高まりが多く見られる反面、教材楽曲の演奏練習が中心となった「楽曲演奏完成型授業」が、また、鑑賞活動では、楽曲を聴いて感想文を書くことが主な学習活動となる「鑑賞作文型授業」が見られることがあった。

これらの授業では、パートやクラス全体としてどのような合唱表現ができるかが問われる等、ときとして、音楽表現としての結果を出すことが目的と化し、生徒一人一人の音楽的な学びよりも、その時間内で、いかに「効率的」に音楽表現を実現させることに重点が置かれてしまうこととなる。

そこで、生徒一人一人の音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばすためにも、表現と鑑賞活動の根本となる、「音楽の諸要素を知覚し、その感性的側面を感じ取る」ことを通して、表現の工夫をしたり、味わって聴く力を身に付けたりする授業展開が、今求められている。そして、このような授業の実現と確かな学力を身に付け、生きる力はぐんぐん増えていくためにも、個に応じた指導の一層の充実が不可欠であるとする。なお、本年度は、当センターの研修参加者から「歌唱活動で個に応じた指導が展開しにくい」という声から、あえて歌唱活動に焦点を当て、取り組んだ。

本調査研究における「知覚し、感じ取る力」

学習指導要領解説～音楽編～(p8)に、「音楽活動の基礎的な能力とは、音楽を形作っている諸要素を感受する能力」とある。そして、諸要素は、「音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などの構成要素と、速度、強弱などの表現要素による構造的側面、そして、雰囲気、曲想、美しさ、豊かさといった、その音楽固有の感性的側面が互いにかかわり合って成立している。」と示されている。本研究では、この「構造的側面を知覚し、感性的側面を感じ取る」力＝音楽活動の基礎的な能力ととらえ、個に応じた指導を展開する際の核とした。

「音楽の諸要素を知覚し、一人一人が自己のイメージや感情を膨らませ、表現を工夫するためのアプローチ」

<題材の目標>

- 曲の特徴を感じ取り、表現を工夫することができる。

<教材>

「マイ・バラード」「夢の世界を」

「一人一人のイメージや思いをもとに、合唱表現する力を高めていくためのアプローチ」

<題材の目標>

- 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現ができるようにする。
- 声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱することができる。

<教材>

「心の瞳」「旅立ちの日に」

本調査研究の視点

個に応じた指導を展開することで、生徒一人一人に、「音楽の諸要素を知覚し、感じ取る力をはぐくむ」こと。

具体的な手だて

- 教材楽曲を通して、生徒一人一人が音楽の諸要素を知覚し、感じ取ることができる学習場面を設定し、自分なりの思いや願いをもてるようにする。

色別の部分をクリックすると各指導案が表示されます。

<事例1> 第1学年
「合唱の喜び～曲の特徴を生かした表現の工夫」

<事例2> 第1学年
「歌声の響き合う美しさを感じ取り、歌う喜びを味わおう」

音楽の諸要素を知覚し、感じ取る力をはぐくむ

<事例3> 第2学年
「豊かな合唱表現をしよう」

<事例4> 第3学年
「合唱の指揮と表現の工夫」

<本調査研究(歌唱)における「個に応じた指導」の捉え方> 一人一人の生徒の実態に応じて、個別の指導を展開するという指導方法はもちろんのこと、歌唱の一斉、グループ(パート)指導において、一人一人が個として音楽を知覚、感受し、表現の工夫ができることを目指した指導方法も含めることとした。

「一人一人に発声の基礎・基本を確実に身に付けさせるためのアプローチ」

<題材の目標>

- 中学生になった自覚を高め、歌い合う楽しさを味わわせる。
- 変声期を理解し、一人一人が自信をもって歌唱活動に取り組めるようにする。

<教材>「明日という大空」

「夢の世界を」

「一人一人が指揮者としての立場を経験しながら、合唱表現をつくりあげていく力を高めたためのアプローチ」

<題材の目標>

- 指揮の基本的な振り方を知り、曲にあった指揮の工夫をすることができる。
- 指揮者の立場から合唱表現を聴き、表現を工夫することができる。

<教材>「思い出は空に」「ひとつの朝」

<成果と課題> 事例1では、音楽の諸要素のうち、3点に絞って表現を工夫する学習を、事例2では、発声の基礎・基本を身に付け、思いや願いを表現していく学習を、事例3では、歌詞の内容や曲想、楽曲構成を知覚し、感じ取ることを通して、表現の工夫をする学習を、事例4では、一人一人が合唱の指揮を体験することを通して、声部の役割や楽曲構成を生かして表現する学習を、各々展開させることができた。音楽科では、生徒は学習内容を表現及び鑑賞活動を通して学んでいく。そして、音楽科の特性でもあるが、生徒が「音」を互いに共有しながら学んでいくことになる。それ故、「音」を共有できていれば、一人一人の学びができているという認識に陥りがちでもある。生徒が「音」を共有し、共通の感動体験をもてることは、音楽学習として大きな価値をもつが、授業では、あくまでも生徒一人一人が、その時間でいかに学べたかが問われなければならない。本調査研究では、この部分に切り込み、個に応じた指導方法の工夫改善に取り組むことができたと思う。

今後の課題としては、観点別評価の第2観点でもある音楽の諸要素を知覚し、感じ取る学習を核に、第3観点の表現の技能、第4観点の鑑賞の能力、そして、これらを支える第1観点の音楽に対する関心・意欲・態度を構造的に捉え、指導と評価を一体化させた指導の展開が挙げられる。

事例 1 題材名「合唱の喜び ～曲の特徴を生かした表現の工夫～」
中学校第 1 学年（4 時間扱い）

～音楽の諸要素を知覚し、一人一人が自己のイメージや感情を膨らませ、表現を工夫するためのアプローチ～

本題材は、学習指導要領第 1 学年の内容のうち、「A 表現（1）」の「キ 音色、リズム、旋律、和声を含む音とのかかわり合い、形式などの働きを感じ取って表現を工夫すること」「ク 速度や強弱の働きによる曲想の変化を感じ取って表現を工夫すること」を指導する事例である。

1 題材の目標

- 曲の特徴を感じ取り、表現を工夫することができる。

2 題材設定の意図

本題材では、表現の技能の向上のみだけでなく、諸要素（構成要素と表現要素）が、曲の特徴や雰囲気を作り出す上でどのような働きをしているかを感じ取るとともに、それをもとに自分のイメージをもち、表現に繋げていく活動を取り入れることで、合唱表現を深めていくことをねらいとしている。

第 1 学年という発達段階を考え、段階を経て、各自が曲の特徴を捉えることができるよう、学習形態を工夫していきたい。また、自分のもったイメージをのびのびと表現させ、仲間と心を合わせて合唱に取り組むことにより、「感動体験の共有」を味わうことで、合唱の喜びを味わわせていきたい。

3 教材

- (1) 「マイ・バラード」（松井孝夫 作詞・作曲）
- (2) 「夢の世界を」（芙龍明子 作詞 橋本祥路 作曲・編曲）

4 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
題材評価の規準	○歌詞の内容や、曲を特徴付けている諸要素に興味・関心をもち、意欲的に表現活動に取り組んでいる。	○歌詞の内容や、曲を特徴付けている諸要素を感じ取り、イメージや感情をもって表現を工夫している。	○歌詞の内容や、曲を特徴付けている諸要素を感じ取って、合唱表現をしている。
学習活動具に体おのけ評価の規準	歌詞の内容を理解し、自己のイメージや感情をふくらませて歌唱表現することに意欲的である。 音楽を特徴付けている諸要素に関心をもち、イメージや感情をふくらますことに意欲的である。 音楽を特徴付けている諸要素に関心をもち、表現することに意欲的である。	歌詞の内容を理解し、自己のイメージや感情をふくらませて歌唱表現を工夫している。 音楽を特徴付けている諸要素の働きを知覚し、それらを感じ取って表現を工夫している。	歌詞の内容を理解し、自己のイメージや感情をふくらませて歌唱表現をする技能を身に付けている。 音楽を特徴付けている諸要素の働きを理解し、それらを感じ取って、歌唱表現する技能を身に付けている。

5 指導と評価の計画（4時間扱い）

時	ねらい・学習活動	具体的評価規準 （評価方法）	・教師のかかわり 個に応じた指導の工夫
ねらい：歌詞の内容や音楽の諸要素の働きに着目し、自己のイメージを膨らませて表現を工夫する。			
1	・歌詞を朗読し、歌詞から伝わる言葉の「エネルギー」を感じ取る。 ・歌詞の内容による曲想の変化を感じ取りながら歌う。	ア - （学習カード） イ - ウ - （活動の観察）	・各自の楽譜・学習カード ・歌詞の内容や言葉の発音に意識を向け、自分なりのイメージをもてるようにする。 ・適宜個別指導をしていく。 ・色を使い、言葉から伝わるエネルギー合いを、視覚で理解できるようにする。（一番伝えたい言葉から、赤・黄・青と言葉を色別で表していく。） ・発音や発声にも意識をもたせ、各自の思いを大切に表現させる。
2	・「マイ バラード」の構成要素を分析する。 ・調やリズム、形式の等の働きを知覚し、曲の大まかなイメージをもつ。 ・感じたイメージを意識しながら合唱する。	ア - イ -	・学習カードや活動の様子を観察しながら、自分なりのイメージをもたせる。 ・具体的な例をあげながら、曲を特徴付ける諸要素とは何かを、感じ取らせる。（調やリズム、旋律の特徴、テンポなど、比較しやすく感じ取りやすい例をあげる。） ・音による具体例や、指揮活動などを交えながら、曲の特徴を捉えさせる。 考察参照 学習カード・自己評価カード
3	・音楽を特徴付けている諸要素による曲の特徴を考え、自己のイメージを広げる。 ・課題の追究から見出したイメージを生かし、合唱練習を行う。	ア - 評価の場面 【7 - 1で紹介】 ア - イ - （学習カード） 評価の場面 【7 - 2で紹介】	・学習カード・発言・活動の観察 ・着目すべき諸要素を手がかりに、楽曲の特徴を絞り、イメージや考えをもたせる。 ・最終的に個人で分析する力を身に付けるため段階を経た活動形態とする。 ・諸要素との関わりを大切にしながら表現させる。
4	・構成要素や表現要素の変化を感じながら表現する。	ア - ウ -	・感じ取った曲想を、のびのびと表現させる。 ・一人一人の考えやイメージを大切にしつつ、全体での音楽表現へとつなげていく。

6 本時の学習（第3時）

- (1) ねらい 楽曲を特徴付ける音楽の諸要素の働きをもとに、曲の特徴を感じ取り、イメージや考えをもって表現する。

(2) 学習の展開

学習内容と主な活動	教師の働きかけ(学習活動における具体的評価規準) 個に応じた指導の視点												
1 学習の雰囲気を作るために、発声を行う。 2 「夢の世界を」を合唱をする。 3 本時の目標を把握する。	・ 発声練習を行い、自然にのびのびと声が出るよう配慮する。 ・ 声部が重なる部分の音程や、声部の役割を意識させる。												
心を込めた表現へ ～ 探れ! 「マイ バラード」の魅力 ～													
4 諸要素による曲の特徴を考え、自己のイメージを広げる。	・ 感覚的に特徴を感じ取るのではなく、諸要素を知覚し、イメージをもつことが目標であることを伝える。 ・ 特徴 = この曲のもつ魅力としてとらえさせる。												
<table><tr><th>形式</th><th>魅力</th><th>活動形態</th></tr><tr><td>・ a → 休符の秘密</td><td></td><td>→ 全体</td></tr><tr><td>・ a → エンジンとハーモニ</td><td></td><td>→ パート</td></tr><tr><td>・ b → リズムの力</td><td></td><td>→ 個人</td></tr></table> (活動形態の工夫参照)	形式	魅力	活動形態	・ a → 休符の秘密		→ 全体	・ a → エンジンとハーモニ		→ パート	・ b → リズムの力		→ 個人	・ 諸要素に関心をもち、自己のイメージや考えをもたせる。 音楽を特徴付けている諸要素に関心をもち、イメージや感情をふくらますことに意欲的である。 (ア -) 活動の観察・学習カード (付箋紙記入) 楽曲の特徴を、「休符」「旋律(声部の役割)」「リズム」の3点に絞り、楽曲の特徴を考え、自分はどのようなイメージで表現していくかを学習カードに記入させる。 最終的に個人で分析できるよう、段階を経た活動形態とする。(全体→パート→個人) ・ 楽曲の特徴を分析していく際には、 A 「なぜこのような手法を用いたのか」 A 「音楽的な効果」 B 「作曲者の込められた思い」 を観点として考えさせる。
形式	魅力	活動形態											
・ a → 休符の秘密		→ 全体											
・ a → エンジンとハーモニ		→ パート											
・ b → リズムの力		→ 個人											
・ 課題の追究から見出したイメージを生かし、合唱練習を行う。	音楽を特徴付けている諸要素の働きを知覚し、それらを感じ取って表現を工夫している。 (イ -) 活動の観察 諸要素との関わりを大切にしながら表現させる。												
													
4 本時のまとめ ・ 本時の学習を振り返る。	・ 必要に応じて技術的な指導も加えるが、本時においては思いや意欲をもって歌わせることを重点とする。 ・ 自己評価カードの記入												

7 観点別評価の進め方

(1) 評価の場面

○この場面の学習活動

- A (歌詞：みんなで歌おう 心を一つにして～)の部分での「休符の秘密は」何かを考える。
 - ・なぜ休符が多く使われているのか、休符に込められたものは何か、発言を促しながら全体で話し合う。
 - ・話し合いから出てきた考えをもとに、この部分にふさわしい表現のイメージを個人で考える。
- A (歌詞：みんなで歌おう 大きな声を出して～)でのユニゾンからハーモニーの味わいについて考える。
 - ・自分のパートの役割も考えながら、パートごとに話し合う。
 - ・話し合いから出てきた考えをもとに、この部分にふさわしい表現のイメージを個人で考える。
- B (歌詞：心も燃える歌が～)における「リズムの力」について考える。
 - ・三連符を使うことでどんな効果があるのか、各自で考える。
 - ・話し合いから出てきた考えをもとに、この部分にふさわしい表現のイメージを個人で考える。

○学習活動における具体の評価規準

「音楽を特徴付けている諸要素に関心をもち、イメージや感情をふくらますことに意欲的である。」
(ア -)

○評価方法

観察

発問に対する発言や反応、話し合いの様子、学習カードへの記入に対する取組を観察する。

- ・諸要素に興味・関心をもち、自分の考えやイメージをもつことに意欲的か。
- ・感覚的ではなく、特徴付けている諸要素と絡めながらイメージをもつことができるか。

学習カード

学習カードや付箋紙に記入された内容を点検、評価する。

- ・考えにもとづき、イメージしたことが記入されているか。

○「十分満足できると判断される」状況(A)と評価する具体例

具体的な内容や、根拠のある考えを意欲的に発言または、記入をしている。

休符も音楽であることに気付き、「語るように」というような意味の語句が記入されている。
声部の役割に着目し、ハーモニーの音楽的な効果を考えながら自分のイメージが記入されている。

歌詞との関わりや曲の盛り上がり、または前後の音楽との対比などに触れながら考えている。

- ・以上のような考えを踏まえ、自己のイメージにつなげているもの。

○「努力を要すると判断される」生徒への指導の手立て

- ・特徴を感じ取りにくい生徒に対しては、
では、休符を入れずに歌ってみた感じと比較させ、休符の効果などを考えさせる。
では、楽譜や板書において、声部がどのように成り立っているかを視覚で理解させ、合唱を客観的に聴かせて雰囲気の違いやハーモニーの効果を感じ取らせる。
では、リズムを指揮や手拍子で感じたり、三連符ではないリズムで歌ってみたときとの感じと比較させる。
- ・カード記入は、個別での助言を行う。

(2) 評価の場面

○この場面の学習活動

- ・課題の追究から見出したイメージを生かし、合唱練習を行う。

○ 学習における評価規準

音楽を特徴付けている諸要素に関心をもち、表現することに意欲的である。(ア -)
音楽を特徴付けている諸要素の働きを知覚し、それらを感じ取って表現を工夫している。
(イ -)

○ 評価方法

観察

練習での様子を通して、演奏による個人の表現を評価する。

○ 「十分満足できると判断される」状況 (A) と評価する具体例

- ・ 自分の考えやイメージと重ね合わせて、意欲的に表現しようとしている。(ア -)
- ・ 休符や声部の役割、リズムなどの特徴を感じながら表現を工夫している。(イ -)

○ 「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だて

- ・ 表現しやすい部分から取り組ませる。(例えばBの部分から)
- ・ 技能の部分でのつまずきについては、個別に指導する。

8 考察 (授業を終えて)

本事例では、楽曲を特徴付けている諸要素に着目し、より質の高い合唱を創り上げていくために、一人一人が自分なりのイメージや思いをもちながら表現を工夫することをねらいとしている。感覚的に曲の特徴を捉えるのではなく、構成要素に着目させ、楽曲を特徴付けている部分での作曲者の思いや、音楽的效果などを考えることで、根拠に基づいた一人ひとりの思いやイメージもたせることにより、表現がより深まると考えた。その「個」の思いをもたせるために、二つの点に工夫をしてみた。

【楽曲の特徴を感じ取るための具体的な方法】

楽曲を特徴付けている諸要素に着目し、その働きや効果を理解した上で、個々のイメージをもたせるために、以下のような方法を試みた。(~ は第2時 ~ は本時)

調性

- ・ 既習曲である「夢の世界を」を短調でピアノ演奏。調により曲の雰囲気が大きく変わってくることを実感させた。

拍子

- ・ 指揮活動を取り入れながら、マーチ(2拍子)・ワルツ(3拍子)・「マイ バラード」と同じ4拍子で雰囲気の異なる合唱曲(「怪獣のバラード」「大地讃頌」など)と比較した。

形式

- ・ 「ぶん ぶん ぶん」などの簡単な曲を使用して形式についての説明をし、「マイ バラード」形式分析を行った。

休符の秘密

- ・ 楽譜を見て、休符が多いことに気付かせ、「なぜ休符が多いのか」「休符に込められた思いは何か」を観点に、個人のイメージをもたせる。休符なしで歌わせることで、休符の役割を感じさせた。

声部の役割

- ・ 女声パートと男声パートの役割、アルトパートが入ることでの音楽的な効果は何かを考え、イメージをもたせた。

リズムの力

- ・ 特徴的な三連符のリズムに着目させ、三連符を使うことで曲の雰囲気がどのように変わるかを考えさせた。形式や歌詞にも関連させながら、イメージをもたせるようにした。

【活動形態の工夫】

「曲の何に着目すれば、楽曲の特徴を感じることができるのか」という観点での学習については、第1学年ということもあり、初歩的な段階であるといえる。そのような中で音楽的な知識や経験が少ない生徒でも、音楽的な根拠に基づいたイメージがもてるよう、全体→パート→個人という段階を経て、学習活動を進めた。「どのようなイメージで表現するか」という点については、個で考えさせた。

	教師の投げかけ等	生徒の反応など	活動形態
休符の秘密	楽譜の形式Aの部分を見て、気付くことは何か？ 休符が多いのはなぜ？どのような意図があるか。 この部分はどんな気持ちで表現するか	・休符が多い。 ・休符があることで、語りかける感じを表している。 ・みんなで息や気持ちをそろえる。 ・優しく語るため。 ・やわらかく歌う。 ・少しだけ力強く語りかける。	全体にて発言・指名 個人カード記入
声部の役割	A'の部分でAと異なるところは？ ユニゾンからハーモニーになったのはなぜか？どのような効果があるのか。また、自分たちのパートの役割は何か？  この部分はどんな気持ちで表現するか。	・女子パートと男子パートに分かれる。 ・最後でアルトパートが出てくる。 ・Aよりも少しハデにして音楽をおもしろくしたかった。 ・次(B)の部分が一番に言いたいところなので、サビに向けて盛り上げていく。 SOP：音程をしっかりととり、主旋律を強調。もっともきれいに歌う。 「歌おうよ」はアルトも入るので、よく聴きながらバランスを取る。 ALT：ハーモニーに厚みをつけるための大事な役割。 曲の味を深めるハーモニーのおかず 男子：ハーモニーを支える土台。 男声の太い声と低い声で支えになる。 ・Aより少し激しく、最後の方は気持ちを込めて。	パートに分かれ、各自の考えを付箋紙に書き、貼っていく。 パートとしての役割を話し合う。
リズムの力	なぜ三連符という特徴的なリズムに言葉をのせるのか。 どのようなイメージをもって表現するか。	・その部分の歌詞の気持ちを強調させたかったから。 ・このリズムだと、力強く歌詞を伝えることができるから。 ・リズムを感じて、力強いイメージ。 ・リズムにのって弾むような感じで。 ・一番伝えたい気持ちを込めて、Cの「きらめけ」が優しく響くように、Bは力強く。	個人で黄色の付箋紙をピンクの付箋紙に記入

以上のような流れで、音楽経験の差により、意欲も技術も感受性も大きく異なる生徒たちが、自分の力で音楽的な要素に基づいたイメージをもち、表現を深めることができると考え、実践を試みた。授業展開の中での「個に応じた指導」という部分は、課題への取り組みに対して、個に応じて指導していくというよりは、音楽の特徴を捉え、表現を工夫していくための能力を「個」に身に付けさせるには…という視点で考えてみた。

この実践を通して、学習形態の工夫や、段階を経て活動を進めることで、「どのような要素に着目

し、どのように音楽の特徴や魅力を感じ取るのか」ということを知り、個々にイメージすることに抵抗なく取り組めた様に思う。また、イメージしたものにきちんとした裏付けがあると、実際に歌唱表現する時に、しっかりと自分のものとして表現を工夫し、思いが伝わってくる合唱となった。そして何よりも、歌詞や強弱記号、パートの役割に着目する生徒が多くなった。簡単に言うと、縦書きの歌詞のみでなく、楽譜を見るようになったということである。

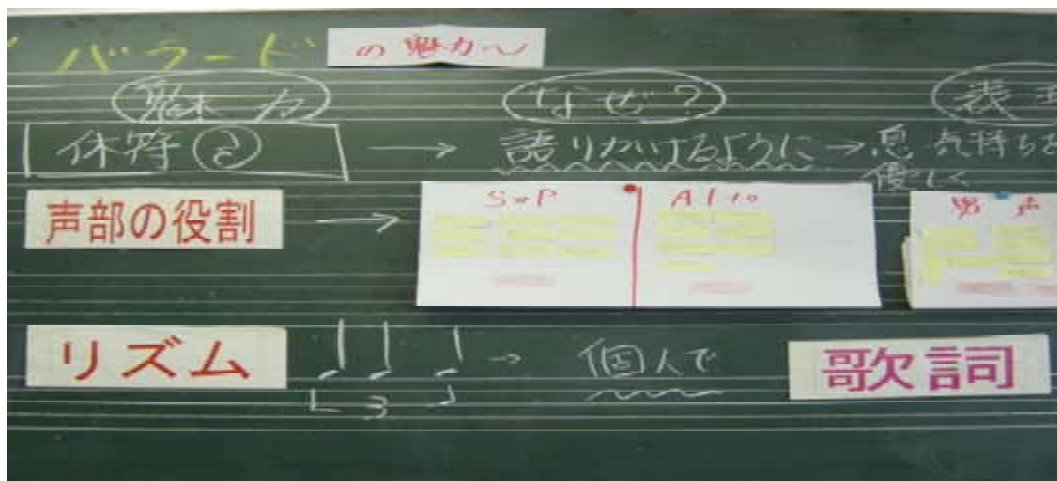
なお、この実践例は、校内合唱コンクールへの取組（8時間扱い）の中での3時間目から6時間目に当たる授業展開である。限られた時間の中での曲を作り上げるためには、とかく教師側の一方的な指導で終わりがちだが、このように音楽の構成要素を知覚した上での表現の工夫というのは、生徒自身の思いも明確になり、表現に深みが出てきたように感じる。また、思いが表現の技能を伴わないこともあるので、「歌唱カルテ」によって個々の技能の課題を把握し、基礎的な技能の習得については個別に対応している。

このような活動を重ねていくことで、合唱のみでなく他の音楽活動も充実し、生徒一人一人が生活の中に音楽を求め、音楽を愛好する心情をはぐくむことに繋がると考える。

【資料】

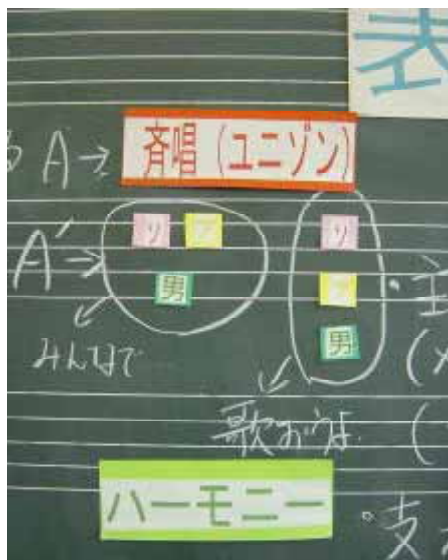
構成要素と表現要素のカードを作成し活用した。

（鑑賞や他の教材でも必要なカードを使用している）



パートの作りを「目」で見えるよう工夫した。

パート別での話し合いでは、自分の考えを付箋紙に記入し、それを張り替えながら、話し合いを進めた。



【学習カード】クラス曲の特徴を書き込めるよう、形式は全クラス共通とした。

心を含めた表現へ

～ 輝け！ マイバレーの魅力～

1. 調性 長調 ・ 短調

2. 拍子 4 分の 4 拍子

3. 速さ(テンポ) ♩ = 88
マイバレーは、明るく、軽快(楽しい)な曲だ。

4. 形式
A ⇒ A' ⇒ B ⇒ C ⇒

5. その他の特徴 (リズム・音の重なり強弱など) どの部分か

A → 休符 → 音のかけ
A' → 音の重なり ユニゾン(A) → 音のかけ
B → リズム

そのほかの特徴 (リズム・音の重なり強弱など) どの部分か

この曲は、まず音のかけで歌う。
そして、力強く歌い、高くきれいな声で歌う。

ポイント (メモ)
・ 音のかけ
・ 音の重なり
・ リズム
・ パーティ

【歌唱カルテ】歌唱の到達度を確認し、生徒は課題をもち、教師は個別指導等で活用する。

歌唱カルテ

年 組 番 氏名

姿勢	ブレス	口の開け方	音量
素晴らしい！ 下半身で体もしっかり支え、上半身自然に伸びることができました。 聴いている人に声を届けようという感じが伝わりました。	素晴らしい！ たっぷり息を吸って十分な息を吐いて歌うことができています。 上半身の力を抜いてまっすぐに声を出すことができています。	素晴らしい！ 口を開くときに唇が自然に出るような口の開け方ができました。 さらに自然な響きで声が出るような口形や表情も工夫して練習していきましょう。	素晴らしい！ 歌や体を十分に伸ばして、声を共有させることができています。 オペラ歌手にも匹敵!! 今後は曲にあわせて表現をのびせし、さらに美しもう。
OK! 正しい姿勢を意識して歌うことができています。 また、さらに上半身を上に伸ばすように意識して練習しよう。	OK! たっぷり息を吸うことができています。 あとは上半身の力を抜き、腹で息を吐いて声を出そう。	OK! 意識して口を開けようとしていることが伝わりました。 さらに響きが増えるように口の中を開けるようにしよう。	OK! 息の出方はOKです。姿勢や気持ち、ブレス、口の開け方のすべてを総合させて、自分の持っている最高の声で歌いましょう。 です!! 「響」で練習しよう。
もうひと息! 正しい姿勢を身につけよう。 手を組まない アゴを上げない 下を曲がない 片足揃いにしない	もうひと息! 息を吸っているのはわかりますが、もっとたっぷりの息が必要で、まず息をしっかりと使いつけて体に息を入れよう。 「吸う」ではなく「入れる」	もうひと息! 息を吸うのはうの開け方でもよいのですが、歌うためには意識的に「ハッ」開けなければなりません。 なので喉の入り口を開きよう。	もうひと息! 歌は、曲に込められた思いや歌詞を「伝える」ことです。そのためには「伝える」ための音量が必要となります。まず息を使い切る。出しやすい音で思い切りだして練習をしよう。何事も練習!
がんばろう! まずは姿勢が大切。 体のうちに正しい姿勢を身につけよう。 意識をすれば誰でもできることだよ。	がんばろう! 息は歌のためのエネルギー源。 まずは息をしっかりと吸って歌うことからはじめよう。 よく歌った息は喉に貯めよう。	がんばろう! 口を開けることは難しいかもしれませんが、両手ぶの指をあて、アゴの動きを確認しながら歌えるようにしよう。	がんばろう! 自分の声は世界に一つだけ。その声を大切にしてください。まず、技術の勉強が、気持ちの準備を考えてみよう。

生徒さん、口の開け方OK!
お腹に力を入れて歌う!

<事例2> 題材名 「歌声の響き合う美しさを感じ取り、歌う喜びを味わおう」
中学校第1学年 （4時間扱い）

～一人一人に発声の基礎・基本を確実に身に付けさせるためのアプローチ～

本題材は、学習指導要領第1学年の内容のうち、「A表現（1）のア「歌詞の内容や曲想を感じ取って、歌唱表現を工夫すること」イ「曲種に応じた発声により、言葉の表現に気を付けて歌うこと」を指導する事例である。

1 題材の目標

- ・歌唱活動を通して、中学生になったという自覚を高め、新しい友達と歌い合う楽しさを味わわせる。
- ・変声期を理解し、多感な生徒達ひとりひとりが自信をもって活動に取り組めるようにする。
- ・楽しく活動し合う中から、自分にあった発声の発見、歌唱能力の向上をめざし、歌唱活動への喜びを味わうようにする。

2 教材

（1）「明日という大空」（平野祐香里作詞 橋本祥路作曲）

（本校では、3年間あらゆる場面で、この曲を歌唱活動の始めに歌うことにしている。）

（2）「夢の世界を」（芙蓉明子作詞 橋本祥路作曲）

関連教材 「さんぽ」「勇気ひとつをともして」「春が来た」「春の小川」「おぼろ月夜」「さくら」「桜」等

3 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
題材の評価規準	・声の響きや声の重なりの美しさに興味・関心をもち、豊かな歌唱表現を求めて歌おうとしている。	・声や声の重なりの美しさを感じ取るとともに、旋律の特徴を感じ取り、表現を工夫している。	・声や声の重なりの美しさを感じ取りながら、自分にふさわしい発声をする技能を身に付けている。
学習活動における具体的評価規準	豊かな響きで歌唱しようと意欲的に取り組んでいる。 声の響きや楽曲の特徴やに関心をもち、進んで学習に取り組んでいる。 声の重なりに関心をもち、自信をもって歌おうとしている。	豊かに響く声や声の重なりの美しさを感じ取っている。 旋律の特徴を感じ取り、歌唱表現を工夫している。	自分にふさわしい発声で、のびのびと高らかに歌唱している。 自分にふさわしい発声や正しい音程で歌う技能を身に付けている。

4 指導と評価の計画（4時間扱い） 太枠内は、「6観点別評価の進め方」を参照

次	ねらい・学習活動	学習活動における 具体の評価規準	評価方法等
第1次 （1時間）	ねらい：楽しく活動に取り組み、抵抗なく声を出せるようにする		
	既習曲、季節の歌を歌う。（毎時） 春が来た 春の小川 一年生になったら さくら 桜（森山直太郎） おぼろ月夜 歌唱を通して発声を学ぶ。 明日という大空 夢の世界を 主旋律を練習する。 夢の世界を 評価の場面 参照	イ - ウ - ↓	活動の観察 演奏の聴取
	副旋律を練習する。		
	二部合唱を楽しむ。 夢の世界を 評価の場面 参照	ア -	演奏の聴取 活動の観察
第2次 （3時間）	ねらい：音程や旋律間のバランス等に留意して、楽しみながら歌えるようにする		
	主旋律を練習する。	ア - ウ -	練習の観察
	副旋律を練習する。		
	よりよい表現を目指すための研究活動を行う。 （教師の示したポイントをもとに、よりよい表現 を目指すための話し合い活動を行う。） 内容を発表、紹介し、表現の工夫を深める。 合唱をまとめ、歌って楽しむ。	イ - ア - イ - ウ -	発言の観察 活動の観察 演奏の聴取 活動の観察

5 本時の学習（第1時）

（1）ねらい

- 自分にふさわしい発声で、新鮮な気持ちを大切にしながら、新しい仲間とともに、楽しく歌唱活動を行う。

(2) 学習の展開

学習内容と主な活動	教師の働きかけ(学習活動における具体の評価規準) 個に応じた指導の視点
1 季節の歌、既習曲を歌う。 2 本時の目標を知る。 3 合唱曲を練習する。 主旋律を教師の主導で音取りする。 副旋律を教師の主導で音取りする。 4 合唱曲のパート練習を行う。 女子生徒は全員が主旋律的、副旋律的パートを両方練習する。 5 混声二部合唱を行う。	小学校で歌ったことを思い出させ、一人一人の表現を尊重し、自由な雰囲気大切に作る。 下を向いていたり、表情のあまりよくない生徒がいた場合、まずは全員に対して注意することで、個々に気付かせる。 それでも改善しない場合は、授業終了後等に個別に指導し、人間関係の構築に努める。 なお、人間関係ができる前に、強い注意をすることで、生徒の意欲をなくすことのないように配慮する。 ○それぞれの身体の発達状況により、「声」の状態が異なること、決して無理をしてはならないこと、変声期で今は発声が不安定な生徒も、いつかは必ず声が安定すること等を丁寧に話していく。 主旋律の音取り練習を始めた直後に、男子生徒向けに、教師が「わざと」あらゆる音域で歌って聴かせ、自分に歌える範囲の音域で歌えばよいことを強調し、一人一人に自分の音域を気付かせる。 その際に注意すべきことは、無理はいけませんが、自分の音域内でもなるべく高音域で歌わせること、女子と同音域でも良いことを伝える。 このことが将来的に、男性パートを自信をもって歌えることにつながる。 豊かに響く声や声の重なり的美しさを感じ取っている。(イ -) 自分にふさわしい音域でのびのびと高らかに歌唱している。(ウ -) 演奏聴取 ○パート練習の進め方について説明する。 具体的な進め方について、まずは、教師自身が練習リーダーの役割を担い、説明を行う。 ○まだ三部部合唱にはせず、ソプラノ、アルトのどちらかと、男子パートの二部合唱とする。 声の重なりに関心をもち、自信をもって歌おうとしている。(ア -) 観察

6 観点別評価の進め方

(1) 評価の場面

○この場面の学習活動

- ・小学生時に歌唱したことのある楽曲、誰もが馴染んでいる楽曲を歌唱する。
- ・季節の歌を歌唱する。
- ・既習曲・合唱曲を用いて発声練習を行う。

○学習活動における具体の評価規準

- ・豊かな響きで歌唱しようと意欲的に取り組んでいる。(観点ア -)
- ・自分にふさわしい発声ができるとともに、正しい音程で歌っている。(観点ウ -)

○評価方法

活動の観察

- ・歌唱を行っている様子を観察し、姿勢、表情、口形、などから評価を行う。

演奏の聴取

- ・歌唱活動を聴取し、適切な発声が行われているか評価を行う。

○「十分満足できると判断される」状況(A)と評価する具体例

- ・自分にあった音域(女声・男声)を用いて、明るい表情で生き生きと活動に参加している。
- ・豊かに響く歌声で歌唱することができる。

○「努力を要すると判断される」生徒への指導の手立て

- ・表情が優れない生徒はその場ですぐに声を掛ける、場合によっては授業終了後等に直接声を掛ける。
- ・教師自身があらゆる音域や音程で歌ってみせ、「このような歌い方」の見本を示す。

(2) 評価の場面

○この場面の学習活動

- ・パートごとに別れて、音取りの練習を行う。
- ・練習を生かして、二部合唱を行う。

○学習活動における具体の評価規準

- ・自分の歌声の特徴やクラスの合唱のバランスを考えながら、自分の歌うパートを責任をもって歌っている(ア -)

○評価方法

活動の観察

- ・パート練習を行っている様子を観察する(活動の観察)
- ・合唱を行っている生徒の様子を、姿勢、口形、表情などの点から評価する(演奏の聴取)

○「十分満足できると判断される」状況(A)と評価する具体例

- ・自分に与えられたパートに責任をもち、しっかりとした声で合唱している。
- ・自分にあった音域でかつ、無理のない発声でのびのびと、自信に満ちた表情で歌うことができている

○「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だて

- ・個人的な歌唱技能に問題のある生徒には、重点的に個別に指導を行う。その際に必ず範唱を行い、一緒に歌う。
- ・下を向いていることの多い生徒には、下を向くことの弊害を全体に対して説明し、必要があれば

ば個別に対応する。

7 考察

中学校に入学した頃の生徒には、変声期をはじめとする心身の発達による心情の変化、急激な環境の変化から、今まで歌唱活動が得意であったり、無意識に歌うことができたりしたことが、急につまずいてしまうことがある。不幸にしてそのような事態に陥ってしまった場合、生徒自らそこから脱却することは容易ではない。そこで、このような「難しい時期」を、生徒が抵抗なく乗り越えられるような、多様な準備を、教師側がいかに行うかが大切になってくる。例えば、誰もが気兼ねなく自由に表現できる人間関係や、クラスの雰囲気づくり、思う存分歌うことが日常的な状態である授業運営が必須であると考ええる。

また、基礎的・基本的事項の確実な定着を図るためには、個人差に応じた指導と、一人一人の生徒のよさや可能性を伸ばすための、個性を生かした指導が必要である。指導にあたっては、この両面に配慮しながら、授業を展開し、生徒一人一人が、意欲をもって活動できるようにしなければならない。

歌唱の基本となる発声については、授業の導入段階における、姿勢や口形、ブレス等、基礎的・基本的な指導を大切にし、さらに、一人一人の生徒の実態を把握し、授業で繰り返し指導し続け、それらの力を定着させていくことが大切ではなかろうか。

さらに、生徒が自分の思いを存分に表現していくためには、生徒が自信をもって歌唱表現に取り組むことが大切であると考ええる。そのためにも、歌唱活動における「音取り」等の練習方法を工夫したり、取組方のパターンを確立したりして、「取り組む」→「できた」→「楽しい」→「やる気が出る」のスパイラルな構図を確立させることを、今後も大切にしたいと考える。

8 参考資料

< 中学校入学時期における歌唱指導について >

変声期の生徒が、無理をせずに歌える曲を選曲することは、指導上の重要事項である。音域や心情にあった教材選びをすることで、意欲的に取り組ませることが可能となり、自ら表現しようとする心情が育成され则认为える。そのためには、転調や編曲を行う等の教材研究、教材開発も必要に応じて行わなくてはならない。また、その時に大切なことは、教師自ら、生徒一人一人の個性＝異なる声質、異なる感性を尊重すること、また、それらの違いや個性があつてよいことを、生徒に明確に伝えることと考える。

特に入学した当初などは、思い切り音楽表現をさせ、音楽室はある意味、自分を自由に表現できる場所であることを知らせる必要があるのではないかと考える。この時、生徒一人一人を把握し、人間関係をしっかりと構築することがポイントであると考ええる。もちろん授業運営上の規律を早い段階から築くことは大切であるが、まず最初に、授業に取り組む姿勢、主体的に音楽と向き合う気持ちをはぐくむことが必要であると考ええる。以下、中学校入学時期における歌唱指導について具体的な事例をあげる。

・ 授業を行う隊形について

机、椅子は用いずに、ピアノの周りに生徒を集め、中心で男女に分け、歌唱活動を行う。利点としては、自由な雰囲気が、比較的簡単に得られ、生徒も歌唱しやすい点があげられる。課題としては、目的がはっきりしないと、授業の「規律」を保つことが難しいことがあげられる。

・ 校歌等を早期に確実に習得するために

昼休みや、放課後等の時間を利用し、全校生徒を男女に分けて音楽室などに集め、上級生の範唱を聴かせながら、一年生も一緒に歌わせる。上級生の歌声を実際に聴き、その姿を目の当たりにすることにより、有無を言わず自然に校歌を身に付けることができるとともに、上級生の意識も高めることができ、やりがいを生み出すという点で有効な手段である。

・あらゆる機会を活用する

学校生活のあらゆる機会を活用し、音楽科の活動を活発化させる。例えば、学年、学校朝会または、学年集会や保護者会などあらゆる機会を利用し、歌を歌うことを習慣化させる。これらにより生徒達の音楽に対する抵抗感も薄れ、「歌声のあふれる学校」実現化への道が開けるものとする。

・合同授業のすすめ

合同授業の実施も大変有効な手段であるとする。特に、合唱祭などの時期に有効であるが、一年中を通して、他学年と交流を図ったり、お互いの歌を聴き合ったりすることは大変有意義なものであるとする。このことを念頭に、年間指導計画等を作成し、全校共通のレパトリーを設定しておけば、スムーズに実施することができる。

<発声指導について>

音楽科の授業では、声楽家を育成するのが目標ではないが、個々が歌いやすくなるように、歌う楽しさを味わえるような指導、配慮を行う必要がある。正しい発声を身に付けさせる＝自分をもたせる＝自信につながり、結果的に意欲的に表現し、学ぶ態度の育成につながる。

声楽における表現とは、あらゆる点において通常の会話とは異なる。以下の図式のように、単に音域や声量、自身と相手との距離にとどまらず、表現における感情や抑揚までが異なる。会話におけるそれらを、声楽にもち込んだ場合、表現力に乏しい、非音楽的なものとなる。

また、発声指導の初期の段階において、声楽的发声においては、日常会話に用いている会話用の呼吸・口・喉とは異なる、耳と共鳴を使った声楽に適した母音を構築 する必要があることを、注意深く、反復して指導を行う必要がある。

耳の感覚と連携させた、口の中（咽頭）の可動の調整、声楽的发声にふさわしい母音の構築をする必要がある。

	感情	音域	距離	声量	抑揚
日常会話	中位	狭い	近い	大きい必要なし	比較的一定
声楽	豊かに	広い	遠い	大きい	豊かに

・姿勢に関する指導例

教師誰もが「正しい姿勢で」「よい姿勢」「胸を張って」等の指示を与えるが、「胸を張って」という指示の場合、肩、喉頭付近に不要な緊張を与える可能性もあり、必ずしも適切な指示語とはいえない。この場合、「普段よりも少し身長が高くなるような立ち方」という表現を用いると、自然で理解しやすい。

・呼吸に関する指導例

腹式呼吸、溜め等、いわゆる支えを体感するための指導法として、チェロを弾く動作を再現させる方法がある。ポウイングの動作である。実際に楽器を抱え込むような姿勢を取り、弓を持って弾く準備をする。この際、同時に吸気するが一瞬に息を吸い込む動作は、まさしく腹式呼吸そのものになり、弓が弦を擦り、音を発音する間、呼吸を続ける。これは、実際に声を発している状態であるが、この状態が、腹式呼吸と理想的な横隔膜の状態を再現してくれる。息を深く吸い→1度息を止め→支えながら吐き続ける という動作を、チェロを弾くという具体的な動作を通して体感できる指導法である。その他、腹式呼吸を意識させる方法としては、「すすり泣き」状態を再現させ、小さく、浅く息を吸うことを体感させることも考えられる。これらの手法は吹奏楽器の指導などにおいても有効である。

・喉の解放を目的とする指導例

舌の先に力が入っている状態は、喉にも力が入っている状態である。これを解消し、喉の脱力感を体験するために、舌の先を前歯の裏へ密着させ「a e i o u」などと発音する練習を行うとよい。

この時、いっさい口の大きさ、形は変えずに、よく声を聴きながら、響きがかわらないように、言葉をしゃべるような感じにならないようにすることが大切である。

発声指導方法は、指導者や研究者によって手法は千差万別であり、指導を受ける生徒一人一人は、全く違った個性をもっている。指導する立場としては、現状を見極める耳、能力、それぞれの症例にあった最適な処方箋をもって指導に臨まなければならない。大切な成長途上にある生徒を音楽的に不幸な体験によって「音楽嫌い」にさせることは、絶対にあってはならないことである。発声指導方法に正しい答えを見出すことは難しいが、多岐にわたる生徒の個性を見極め、受け止めることのできる発声指導体系を、確立させることが大切であると思う。

～ 生徒一人一人のイメージや思いをもとに、合唱表現する力を高めていくためのアプローチ ～

本題材は、学習指導要領第2学年の内容のうち、A表現(1)の「ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫すること」、「エ 声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱や合奏をすること」を指導する事例である。

1 題材の目標

- 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現ができるようにする。
- 声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱することができるようにする。

2 題材設定の意図

学習指導要領の第2・3学年の目標(2)では、「楽曲構成の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創造的に表現する能力を高める。」と示されている。

創造的に表現する能力を高めるためには、楽曲の仕組みや、それによって生み出される豊かさや美しさを、一層明確に感じ取って表現することが大切になる。そこで本題材では合唱の学習を通して、歌詞の内容や曲想、全体の響きの調和を感じ取って表現する力を高めたい。そのために、生徒一人一人に楽曲の仕組み等を、じっくり考えさせ、表現に結び付けていくことに重点を置く。

3 教材

- (1) 「心の瞳」 荒木とよひさ 作詞 三木たかし 作曲 横山潤子 編曲
 (2) 「旅立ちの日に」 小嶋 登 作詞 坂本浩美 作曲 松井孝夫 編曲(既習曲)

4 題材の評価規準

【題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準】

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
題材評価の規準	・歌詞の内容や曲想、声部の役割と全体の響きに関心をもち、合唱表現することに意欲的である。	・歌詞の内容や曲想を味わい、自己のイメージや感情を生かして歌唱表現を工夫している。 ・演奏を客観的にとらえ、全体の響きの調和を感じ取って合唱表現を工夫している。	・歌詞の内容や曲想を味わい、自己のイメージや感情を生かして歌唱表現をする技能を身に付けている。 ・演奏を客観的にとらえ、全体の響きの調和を感じ取って合唱表現をする技能を身に付けている。
学習具活体動に評価規準	音程やリズムに留意しながら、正確に歌えるように意欲的に取り組んでいる。 歌詞の内容や曲想に関心をもち、意欲的に表現しようとしている。 各声部の役割について関心をもっている。	歌詞の内容や曲想から、自己のイメージをつかんでいる。 各声部の役割と全体の響きを感じ取って、合唱表現を工夫している。	自分の声部をおおむね正確な音程やリズムで歌うことができる。 歌詞の内容や曲想から、イメージをもって合唱表現をしている。 他の声部との調和を生かしながら合唱することができる。

5 指導と評価の計画（4時間扱い）

時	ねらい・学習活動	具体的評価規準 (評価方法)	・教師のかかわり 個に応じた指導の工夫
第1次 ねらい 音程やリズムに留意して、正確に歌えるようにする。			
1	・範唱 CD を聴き、曲の雰囲気をつかむ。 ・自分のパートの音符にマーカーでラインを入れる。 ・パート練習用 CD を使い、音取りのパート練習をする。 ・歌いづらい部分をチェックし、自分の課題として把握する。	 ア - (観察)	・取組の早い生徒には、他に気を付けさせたいポイントをチェックさせる。 ・各パートを巡回し、効果的な練習方法について指導する。また、音程がうまくとれない生徒には、音程の正確な生徒の近くに配置し、練習させる。 学習カード（楽譜にも直接記入） ・適宜個別指導をしていく。
2	・合唱し、パートとして不安定な部分を把握する。 ・うまく歌えない部分を中心に、工夫してパート練習をする。 ・ハーモニーを味わいながら合唱する。（録音または録画する。）	ア - (観察) ウ - (観察)	・全体合唱に限らず、1パートが歌って他のパートにアドバイスをさせるなどして、多面的に把握させるようにする。 パート内でペア→小グループ→パート全体の順に取り組ませる。 学習カード（自己評価）
第2次 ねらい 歌詞の内容や曲想、全体の響きの調和を感じ取って合唱できるようにする。			
3	・歌詞の内容や曲想から、よりよい表現のために必要なことを考える。 ・2つのグループに分かれ、各自のイメージを発表し合い、それを基にグループ練習を行う。 ・歌詞の内容を味わいながら、曲想を意識して合唱する。	イ - (学習カード) ア - (観察) ウ - (観察)	学習カード（自分のイメージや感情） ・歌詞と旋律の関わり（特に山場）について着目させる。 ・グループ分けに関しては、声部のバランスが取れるよう、十分配慮  ・発声、発音、呼吸、強弱等を中心に意識をもたせる。
4	・声部の役割や響きの調和について考える。 ・考えをもとに、2グループに分かれて練習し、発表し合う。 ・学んだことを生かして全員で合唱する。	ア - 評価の場面 【7 - 1で紹介】 イ - ウ - 評価の場面 【7 - 2で紹介】	学習カード ・各パートの役割に加えて、ユニゾンとハーモニーの味わいについても考えさせる。（歌ってみたり聴いてみたりしながら） 聴く側には、次に歌うときの自分の課題としてとらえさせる。 一人一人がイメージをもって表現する。 ・学習した内容を生かせるよう、課題意識をもたせて取り組ませる。

6 本時の学習（第2次、第4時）

（1）ねらい

- 声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱することができるようにする。

（2）学習の展開

学習内容と主な活動	・教師の働きかけ（ <u>学習活動における具体の評価規準</u> ） <u>個に応じた指導の視点</u>
1 校歌、既習曲を歌う。	・姿勢、腹式呼吸などに気を付けさせながら、楽しく伸び伸びと声を出させる。
2 本時の目標を知る。	<u>声部の役割を生かして、美しい合唱をつくりあげよう。</u>
3 声部の役割や響きの調和について考える。 ・曲の各部分における声部の役割を考え、楽譜に記入する。 ・ユニゾンとハーモニーの味わいについて考える。 ・考えをもとに、2グループに分かれて練習し、発表し合う。 ・学んだことを生かして全員で合唱する。	・学習カードに、声部の役割としての用語をあらかじめ用意し、説明をしてから取り組ませる。 <u>メロディー（主旋律）</u> <u>メロディーを支える（ハーモニーを作る）</u> <u>雰囲気を作る、飾りなど</u> 各声部の役割について関心をもつことができる。 （ア－）観察、楽譜に記載されている内容について点検 <u>編曲者が、曲の山場の1回目は三部、2回目をユニゾンにしたのはなぜかを考え、学習カードに記入させる</u> <u>楽譜をスクリーンに投影し、全員で確認しながら活動を進める。</u> ・「声部の役割、ユニゾンとハーモニーの味わい」でとらえた内容を、練習・発表に反映させる。 <u>学習カードに、相手グループの演奏を聴いて気付いたことを記入させるが、気付いた内容そのものを、次に歌うときの自分の課題としてとらえさせる。</u> 各声部の役割と全体の響きを感じ取って、合唱表現を工夫している。（イ－）演奏聴取 他の声部との調和を生かしながら合唱することができる。 （ウ－）演奏聴取 <u>一人一人、イメージをもって表現させる。</u>
4 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る。	・自己評価の記入を促し、本時を振り返らせる。

7 観点別評価の進め方

（1）評価の場面

○この場面の学習活動

- ・曲の各部分における声部の役割を考え、楽譜に記入する。
- ・ユニゾンとハーモニーの味わいについて考える。

○学習活動における具体の評価規準

「各声部の役割について関心をもつことができる。」（ア－）

○ 評価方法

＜ 観察 ＞

楽譜や学習カードに記入する取り組みの様子を観察する。

- ・意欲をもって、学習に取り組んでいるか。

＜ 楽譜に記載されている内容について点検 ＞

生徒が個々に記入した楽譜を授業終了後に回収し、その記載内容について点検、評価する。

- ・学習カードにて指示された内容が記入されているか。

○ 「十分満足できると判断される」状況（Ａ）と評価する具体例

- ・楽譜に声部の役割を記入する際、「主旋律、ハーモニー」以外の言葉を１つ以上使い、それが的確であった場合。
- ・具体的な意見や感想などを積極的に発言している。

○ 「努力を要すると判断される」生徒への指導の手立て

- ・関心がもてない生徒には、まず「主旋律」を考えさせ、マーカーなどでラインを記入させる。
- ・学習カードへの記入は、個別に話すことによって、記入できる内容の助言を行う。

（２）評価の場面

○ この場面の学習活動

- ・学んだことを生かして全員で合唱する。（声部の役割を生かして、美しい合唱をつくりあげる。）

○ 学習活動における具体の評価規準

「各声部の役割と全体の響きを感じ取って、合唱表現を工夫している。」（イ - ）

「他の声部との調和を生かしながら合唱することができる。」（ウ - ）

○ 評価方法

＜ 演奏聴取・観察 ＞

グループごとの練習、演奏発表を通して、個々の生徒の演奏を評価する。

○ 「十分満足できると判断される」状況（Ａ）と評価する具体例

- ・三部とユニゾンによる響きの変化や特徴を味わい、より質の高い合唱になるよう他と協力しながら表現を工夫している。（イ - ）
- ・三部とユニゾンによる響きの変化や特徴を味わいながら表現する技能を身に付けている。（ウ - ）

○ 「努力を要すると判断される」生徒への指導の手立て

- ・生徒の技能の習得状況を事前に把握し、声の出し方等のつまずきなどに個別に対応する。
- ・響きなどを気にせず、自分の声部をただ歌っている生徒には、自分の声を周囲の声にとけ込ませるよう声をかける。（イ - ）（ウ - ）

8 指導を終えて

これまで、合唱の授業といえば「校内合唱コンクール」のために、生徒が自分たちで練習するための方法を身に付けさせることが主であったり、その他の学校行事にて歌う曲を完成させるためのものであったといっても過言ではない。今回、個に応じた指導を充実させるためのポイントを「合唱」の授業におくことで、今までの授業を見直すよい機会となった。

第１次「音程やリズムに留意して、正確に歌えるようにする。」では、週１時間の授業で効率よく譜読みができるよう、パート練習用 CD を使用した。パート練習用 CD の活用は、時間の節約に大変有効であるが、曲を耳で覚えることで楽譜を見なくても歌えるようになる。そこで、楽譜にマーカーでラインをを入れさせ、常に楽譜（音符と歌詞を同時に見る習慣を付ける）を見ながら歌わせるようにした。さら



に、音取りの過程を3段階に分けたり（パート練習用 CD 使用→伴奏のみ→無伴奏）学習カード

を使って一人一人に譜読みの成果を記入させたりして、歌を覚えるための練習ではなく、楽譜から曲が歌えるようになることを目標にして練習に取り組ませた。

第2次「歌詞の内容や曲想、全体の響きの調和を感じ取って合唱できるようにする。」では、楽曲完成を目標には掲げずに、歌詞と旋律の関わりや、声部の役割、響きの調和などについて一人一人にじっくり考えさせることに重点を置いた。それにより、生徒一人一人が真剣に楽曲と向き合い、詩のもつ意味や編曲者の気持ちを想像することができ、響きの調和を追求するうえでとてもよい学習ができた。

限られた授業時数では効率よく練習を積み重ねて楽曲を完成させることが重要であるが、今回、曲の一部分でも一人一人が深く追究し、それを共感して取り組んだことが、結果的に楽曲の完成を早め、創造的に表現する能力を高めることにつながったといえる。

<合唱を楽しもう> 学習カード I 平成 年 月 日

曲名: 「心 の 夏」

2年 組 番 氏 名 _____

1. 音取りのパート練習をして、自分が歌いにくかった所、うまく歌えないところをまとめるよう。

歌いにくいポイント	目付1	目付2	目付3
前P271. 2曲目の2小節目「しんじて」の部分	×	△	○
P50 16節目の「4小節まで」	×	○	
P50 24節目の「2小節分ゆる所」	×	○	
P52 14節目「4小節まで」	×	△	
P49 15目2、4番の所	△	○	

2. パートとして歌いにくいポイント(他のパートからの指摘を含む)をまとめるよう。

歌いにくいポイント	目付1	目付2	目付3
P49の12目	△	△	
P50の3段目 2、3小節	×	△	
P52の1段目全て	×	△	

3. 他のパートへのアドバイスを書き入しよう。

P48 うきうき(音)が上手に歌えないので、この音が下なすように、たどる。 P52 22節目より3番目の2小節の1、2の音が、たどる音がたどる。	P51 12目の、ききのため、よみがたどるPLした。 歌えなかったP49の2小節の音の、たどるの、よみがたどる。
--	--

4. 音取りの振り返り (A B C D で評価しよう)

① 練習に熱心に取り組むことができた。	A (B) C D
② 楽譜(音程と歌詞の両方)を見ながら歌うことができた。	(A) B C D
③ 自分の課題(歌いにくいところ)を自分で発見できた。	(A) B C D
④ 楽譜で歌えるようになった。	A (B) C D
⑤ 他のパートにつられずに歌えるようになった。	A (B) C D

<合唱を楽しもう> 学習カードⅡ 平成 14 年 10 月 5 日

曲名: 「心の瞳」

2 年 組 菅 氏 名

1. 歌詞を聴いた感想を書こう。

愛は「心」で伝わるから「心」がわかってこそ本当の愛がある。ほぐれてはわがまま。
愛は「心」で伝わるから「心」がわかってこそ本当の愛がある。

2. 歌詞の内容から、自分が大切にしたいポイントを書き出してみよう (理由も)。

「心」がわかってこそ本当の愛がある。ほぐれてはわがまま。
(心) をわかってこそ本当の愛がある。ほぐれてはわがまま。
(心) をわかってこそ本当の愛がある。ほぐれてはわがまま。
(心) をわかってこそ本当の愛がある。ほぐれてはわがまま。

3. 音楽的に重要な部分 (山場) はどこだろう。

「心」の瞳の瞳 (心) から (心) は心で伝わるから
心で伝わるから (心) は心で伝わるから
心で伝わるから (心) は心で伝わるから

4. 自分のパートにとって重要な部分はどこだろう (理由も)。

「心」の瞳の瞳 (心) から (心) は心で伝わるから
理由
・メロディがわがまま
・心で伝わるから (心) は心で伝わるから

5. 自己評価 感想、反省、気づいたこと、感動したこと、わかったこと、できなかったことなど

ABCD

B

歌詞に「心」の瞳の瞳 (心) から (心) は心で伝わるから

<合唱を楽しもう> 学習カードⅡ 平成19年10月5日

曲名: 「ハの魂」

2年組番氏名

1. 歌詞を讀んで感想を書こう。

漢字で書いているものを読み取、歌詞の意味や改めて分かった。
 ずいぶん心に残るような文がしつ。
 他へ心をとめて歌うたう良いと思った。

2. 歌詞の内容から、自分が大切にしたいポイントを書き出してみよう (理由も)。

「愛おしく ありがとう かなしみばかりかかっていた
 愛おしく ありがとう いとも すべて れから合える」

(理由) 歌詞全体の中で、何度かくり返しあり「結論」で思いだす切
 りてあるから。

3. 音楽的に重要な部分 (山場) はどこだろう。

「たとえ ～ 絆で結ばれてる」
 この中でも、特に、「たとえ 変わらぬ絆で結ばれてる」

4. 自分のパートによって重要な部分はどこだろう (理由も)。

「生きた足跡が」 あしの音のぶんがのしめた。
 (理由) 変わらぬ絆 ～ ～ へいにはのびのびの音の奏れ。
 (理由) ② 「心から 高い音で、乱暴になりにがらぎあら」
 ③ 「心から 高い音で」 「わががががががが」 「わががががががが」

5. 自己評価

ABC	感想、反省、気づいたこと、感動したこと、わかったこと、できたことなど
A	練習曲は、主として歌詞と曲の響きより入って作っていたことが分かった。 歌詞を改めて読んで、この曲の伝えていることが分かった。 それを聴いて、心に残るような文がしつ、



<合唱を楽しもう> 学習カードⅢ 平成 18 年 10 月 11 日

本日の目標：「声部の役割を生かして、美しい合唱をつくりあげよう。」

2 年 組 番 氏 名

1 楽譜に声部の役割を書き込もう。

【メロディー（主旋律）、メロディーを支える部分（ハーモニーを作る）、雰囲気を作る】などの言葉を使う。自分が思いついた言葉を使ってもよいので、積極的に取り組もう。

2 編曲者が、曲の山場の 1 回目は 3 部、2 回目をユニゾンにしたのはなぜだろうか。

- ・2 回目の歌詞を強調したかった。
- ・かわらないのメロをきかせたため
- ・2 回目は、ユニゾンでいきまにみんなの気持ちを上げるため。

3 相手グループの演奏を聴いて気づいたことを書いてみよう。

ポイント：バランス（メロディーや特に強調する部分）、力強さ など

①「たとえあしたが〜」の部分（3 部合唱）

他のパートに合わせる（他パートの音も聞きながら）
Aグループ
ソプラノとアルトが強すぎて
アルトが聞こえにくい

②「いつか若さを〜」の部分（ユニゾン）

力強く!! / A. よく声が聴こえる。
テノールの声も good!!

③「かわらない〜」の部分（ユニゾン→3 部）

ソ・テ... 音をはす、音はいじ / A. ソプラノの強すぎる(若干)
ア... 頑張ってたす!!

4 自己評価 A（できた）B（少しできた）C（あまりできなかった）D（できなかった）

① 意欲をもって真剣に取り組めましたか。	A - B - C - D
② 「わかった、できた」という満足感がもてましたか。	A - B - C - D
③ 自分なりにイメージをもって、それを表現できましたか。	A - B - C - D
④ 自分のパートと他のパートのかかわりを理解して歌えるようになりましたか。	A - B - C - D

感想、反省、気づいたこと、感動したこと、わかったこと、できなかったことなど

やっぱり、アルトとしては「Hum」のところを頑張って響かせなければ!と思う。
全体も、他パートとのバランス・ハモニーを大切にしたい。

< 合唱を楽しもう > 学習カード

平成 年 月 日

曲名：「 」

年 組 番 氏名

1 音取りのパート練習をして、自分が歌いにくかったところ、うまく歌えないところをまとめよう。

歌いにくいポイント	日付 1	日付 2	日付 3
例) P271、2 段目の 2 小節目「しんじて」の部分	×		○

2 パートとして歌いにくいポイント（他のパートからの指摘を含む）をまとめよう。

歌いにくいポイント	日付 1	日付 2	日付 3

3 他のパートへのアドバイスを記入しよう。

--	--

4 音取りの振り返り（A B C D で評価しよう）

練習に熱心に取り組むことができた。	A B C D
楽譜（音符と歌詞の両方）を見ながら歌うことができた。	A B C D
自分の課題（歌いにくいところ）を自分で発見できた。	A B C D
無伴奏で歌えるようになった。	A B C D
他のパートにつられずに歌えるようになった。	A B C D

< 合唱を楽しもう > 学習カード

平成 年 月 日

曲名：「 」

年 組 番 氏名

1 歌詞を読んだ感想を書こう。

2 歌詞の内容から、自分が大切に歌いたいポイントを書き出してみよう（理由も）。

3 音楽的に重要な部分（山場）はどこだろう。

4 自分のパートにとって重要な部分はどこだろう（理由も）。

5 自己評価 感想、反省、気付いたこと、感動したこと、わかったこと、できなかったことなど

A	B	C	D

< 合唱を楽しもう > 学習カード

平成 年 月 日

本日の目標：「声部の役割を生かして、美しい合唱をつくりあげよう。」

年 組 番 氏名

1 楽譜に声部の役割を書き込もう。

【メロディー（主旋律）メロディーを支える部分（ハーモニーを作る）、雰囲気を作る】などの言葉を使う。自分が思いついた言葉を使ってもよいので、積極的に取り組もう。

2 編曲者が、曲の山場の1回目は3部、2回目をユニゾンにしたのはなぜだろうか。

3 相手グループの演奏を聴いて気付いたことを書いてみよう。

ポイント：バランス（メロディーや特に強調する部分）、力強さ など）

「たとえあしたが～」の部分（3部合唱）

「いつか若さを～」の部分（ユニゾン）

「かわらない～」の部分（ユニゾン→3部）

4 自己評価 A（できた）B（少しできた）C（あまりできなかった）D（できなかった）

意欲をもって真剣に取り組めましたか。	A - B - C - D
「わかった、できた」という満足感がもてましたか。	A - B - C - D
自分なりにイメージをもって、それを表現できましたか。	A - B - C - D
自分のパートと他のパートのかかわりを理解して歌えるようになりましたか。	A - B - C - D

感想、反省、気付いたこと、感動したこと、わかったこと、できなかったことなど

＜事例４＞ 題材名「合唱の指揮と表現の工夫」(３時間扱い) 中学校 第３学年

～一人一人が指揮者としての立場を経験しながら、合唱をつくりりあげていく力を培うためのアプローチ～

本題材では 学習指導要領のＡ表現（２）「ア 歌詞の内容や曲想を感じ取って、歌唱表現を工夫すること」を指導する事例である。合唱の表現活動をととして『指揮』そのものについて触れ、全員が指揮者の立場を経験する中から、表現活動に対してさらなる深まりをもたせることをねらいとしている。

１ 題材の目標

- ・ 指揮の基本的な振り方を知り、曲にあった指揮の工夫をすることができる。
- ・ 指揮者の立場から合唱表現を聴き、表現を工夫することができる。

２ 題材設定の意図

音楽の学習における身体表現の活動は、音楽の基礎的な能力を身に付けるために大きな役割をもつものである。小学校の経験の上に立ち、中学校では生徒の発達段階に応じて一層効果的な活動が期待できるものである。音楽を感じて身体的な表現をするためには、指揮のような動作の活動を取り上げていくことは意義のあるものである。また、実際の合唱活動の中で、生徒が指揮を体験できる機会を設け、指揮法の工夫をさせることも、個性を生かす上で、大切なことであるとする。

本題材では第１学年・第２学年において指揮の基礎を経験した上に、さらに指揮の基本的な振り方、効果的な左手の使い方を知り、全員が指揮者の立場を知ることにより、さらに表現を深めていこうとするものである。

また、発達段階に応じて「指揮者として要求する立場」・「指揮者に要求される立場」の両方を経験することにより、「音楽的に応えるための能力」が身に付き、これが主体的に学習に取り組む態度の育成につながるものと考え、本題材を設定した。なお、本題材は、題材「混声合唱を味わおう」の次の題材として位置付けられており、教材楽曲は同一のものを使用している。

３ 教材

- | | | | | |
|--------------|-------|----|-------|----|
| (1) 『思いでは空に』 | 秋葉てる代 | 作詞 | 川崎 祥悦 | 作曲 |
| (2) 『ひとつの朝』 | 片岡 輝 | 作詞 | 平吉 毅州 | 作曲 |

4 題材の評価規準

【題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準】

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
題材の評価規準	・指揮の活動とその表現に意欲的である ・歌詞の内容や曲想に関心をもち、合唱表現に意欲的である。	・各声部の役割を生かした指揮の工夫をしている。 ・重なり合う各声部の響きを感じ取って、歌唱表現を工夫している。	・歌詞や曲想にふさわしい指揮をすることができる。 ・歌詞の内容や曲想を生かした歌唱表現ができる技能を習得している。
学習活動における具体的評価規準	歌詞や曲想に関心をもち主体的、意欲的に表現活動に取り組んでいる。 意欲的に指揮練習に取り組み、左手の使い方を工夫している。	各声部の役割と全体の響きを感じ取って、表現の工夫をしている。 歌詞の内容や曲想にふさわしい指揮を工夫しようとしている。 自分たちの合唱に関心をもち、指揮と一体化した表現を工夫しようとしている。	各声部が生かせるよう考えて指揮をしている。 指揮に合わせて、各声部を生かした合唱を表現することができる。 各声部の役割を考え、生かしながら合唱をすることができる。

5 指導と評価の計画（４時間扱い）

	ねらい・主な活動	学習活動における 具体的評価規準	・教師のかかわり 個に応じた指導の工夫
< 第１次 > ねらい 指揮の基本的な振り方を身に付けよう			
1	・指揮の基本的なふり方を練習する。 ・指揮の工夫 曲の構成や雰囲気を感じとり、指揮を工夫する。	ア - 評価の場面 【 7 - 1 で紹介 】 イ - ・ウ - 評価の場面 【 7 - 2 で紹介 】	・左手を自由に使えるよう、段階を踏んで指導を行う。 - 指揮をしながら拍節がずれてしまう生徒には個人的に支援を行う。
< 第２次 > ねらい 曲の構成・曲趣を考えた指揮と指揮の工夫			
2	・曲の構成、曲趣を生かした合唱と指揮を行う。	イ - ・ウ -	・その曲のもつ雰囲気・感情を話し合わせ、自分たちの表現を考え、話し合わせる。
3	・指揮と合唱とが一体感をもって音楽を表現する。 ・	ア - ・イ - ・ウ -	・指揮者だけで考えるのではなくクラスの意見を反映させて表現させたい。 ・ビデオ撮影し自分たちの合唱を鑑賞しながら自己評価とともに、表現の工夫をさせる。

6 本時の学習（第1次 第1時）

(1) 本時の目標

- ・曲の構成や曲想を生かした指揮を工夫する。

(2) 学習の展開

学習内容・学習活動	○教師の働きかけ 学習活動における具体の評価規準 個に応じた指導の工夫
1 既習曲の合唱  2 指揮の基本の確認 4拍子の練習をする。 左手を使うための練習をする。	○曲のもっている雰囲気大切にさせながら歌わせる。 歌っている状況を判断し、何人かに声がけを行い、積極的に活動できるよう意欲付けを行う ○4拍子を振る際、手の振り方の左と右のバランスに気を付けさせる。状況に応じて『脱力』の練習も行う 意欲的に指揮の練習に取り組んでいる 生徒間を巡回し、適宜助言を加える。
2人1組のペアで向かい合い、学習をすすめる テンポと拍節をつかませるためリズムボックスを使用する。（既習曲のテンポ） 1 最初にA群の生徒が指揮の演習を行い、B群生徒はペアの生徒の指揮を見て、助言を行う。（一定の時間を見て、A・Bが交代で行う。） 2 A群の生徒が4拍子の指揮をし、B群の生徒はペアの生徒に話しかけ質問を投げかける。B群の生徒は質問に答えながら指揮を続ける。 質問の例 今日は何時に起きたの？ 今朝の朝ごはんのメニューは？ 好きな教科は？ 等  質問がペアの相手にとって簡単な内容の時は、指揮が乱れることはないが、質問の内容に対して相手が考え込むようになってくると4拍子の指揮も乱れやすくなる。ここでは、考え込みながらも指揮が乱れずに振れるようになることをねらいとする。 3 A群の生徒が4拍子の指揮をし、B群の生徒は左手を動かす方向を指示する A群の生徒は右手で4拍子を指揮しながら、左手は指示された方向に動かす。 指示の例 上・下・右・左 等の方向 頭をさわる・肩をさわる・ 自分の鼻をさわる 等の指示  4拍子の指揮をする右手の動きと同一方向のタイミングで指示を出された時は戸惑いが無いが、右手の動きと相反する方向のタイミングで指示が出された場合は、右手の指揮も乱れやすくなる。ここでは、自由なタイミングで左手を動かせるようになることをねらいとする。	

右手（片手）で指揮をして
いる場合、途中から左手を
加え両手で指揮をする場合
の左手の動き始めのタイミ
ングを練習する。

3 指揮の工夫 曲想にあった指揮を工夫する。

2人1組でペアを組み練習す
る。



4 工夫した指揮を発表する

どのタイミングで左手を指揮に
加えたら、自然に手が動けるの
か、考えながら体得させる。

生徒間を巡回し、適宜助言を
加える。



- ・楽譜を見ながらCDを聴き、曲の構成や雰囲気を感じとり、CDに合わせて指揮を工夫する。
曲想にあわせた指揮を工夫することができる
指揮の振り方についてアドバイスを行う
- ・実際に生徒の指揮で合唱する。生徒の指揮の特徴を見出し、そのつど賞賛していく。
指揮の振り方についてアドバイスを行う

7 観点別評価の進め方

(1) 評価の場面

○この場面の学習活動

指揮の基本の確認（4拍子の練習）

- ・2人1組でペア学習を行う。1人が指揮をしている間、もう一人は4拍子の指揮の形を見るときともに、相手に質問を行いお互いに会話をしながら4拍子の指揮が行えるよう練習する。

左手を使うための予備練習

- ・右手（片手）で指揮をして、途中から左手を加え両手で指揮をする場合の左手の動き始めのタイミングを練習する。

○学習活動における具体的評価規準

「意欲的に指揮の練習に取り組み、左手の使い方を練習する」(ア -)

○評価方法

< 観察 >

棒の向き、腕の振り方や視線の方向を観察する。

- ・意欲をもって学習に取り組んでいるか。
- ・相手の質問に答えながらも、指揮をずらさずに行おうとしているか。

○「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する具体例

- ・棒の先の向きに気を付け、ペアの相手の質問に答えながら熱心に練習に取り組んでいる場合。
- ・指揮をしているペアの相手に、積極的に指揮の助言を行っている場合。

○「努力を要すると判断される」生徒への指導の立て

- ・ 4 拍子の図形がうまく描けない生徒には、生徒の正面に立ち棒の先を持ってあげながら一緒に 4 拍子の図形作りの練習を行う。
- ・ 相手の質問に答えることにより指揮がずれてしまう生徒には、上記と同様の方法で教員・または生徒がサポートしながら、練習を行う。

(2) 評価の場面

○この場面の学習活動

曲想にあった指揮を工夫する

- ・ 楽譜を見ながら C D を聞き、曲の構成や雰囲気を感じ取り、指揮を工夫する。

工夫した指揮を発表する

- ・ 代表の生徒の指揮で合唱する

この場合の代表者は、挙手で立候補を募る。学級の指揮者である必要はない。

○学習活動における具体の評価規準

「曲想にあわせた指揮を工夫し発表することができる」(イ - ・ウ -)

○評価方法

< 演奏聴取・観察 >

個人個人の指揮の練習・工夫の様子を観察する。

○「十分満足できると判断される」状況 (A) と評価する具体例

- ・ 旋律の重なりやダイナミックスの変化を感じ、適切な指揮の表現を工夫している。

(イ -)

- ・ 曲の特徴を生かしながら指揮としての身体表現できる技能を身に付けている。

(ウ -)

○「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だて

- ・ 個々の習得状況や表現の状況を把握しながら、指揮の振り方について適宜助言を行う。
- ・ 個々の指揮の表現の中でそのつど賞賛し、次への意欲へと結び付けられるようにする。

8 考察

『指揮をしてみたい』という気持ちをもつ生徒は多い。本題材を通して、これまでは特別な技能を必要とするものとして捉えて敬遠していた指揮に対して、意欲的に取り組む姿が見られるようになった。歌いながら指揮をして友人と意見交換をする生徒、自分が指揮をして友人に歌ってもらっている生徒等、以前には見られない生徒の姿が数多く見られるようになった。

そして、何よりも大きな成果は、歌っている生徒・指揮をする生徒の表情が明るくなったことである。主体的に表現活動に取り組むことによって、表現にもこれまでになかった深まりが見られるようになった。『わかる』が『出来る』という喜びに変化し、それが『自信』と『喜び』に結び付けられたとき、生徒の力は大きく高められていくことを強く実感するものであった。